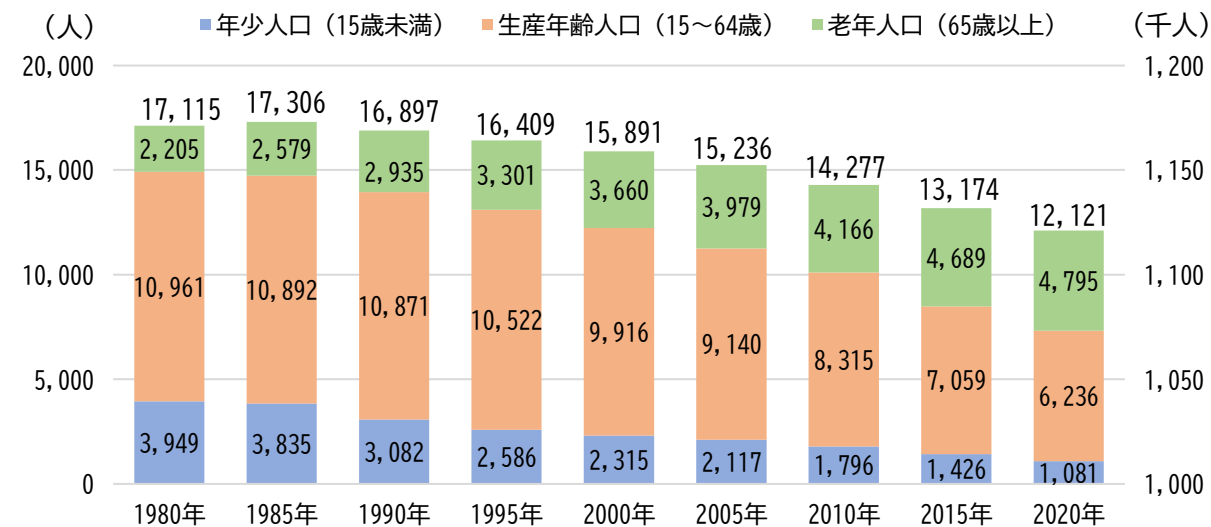


(1) 宝達志水町の現状

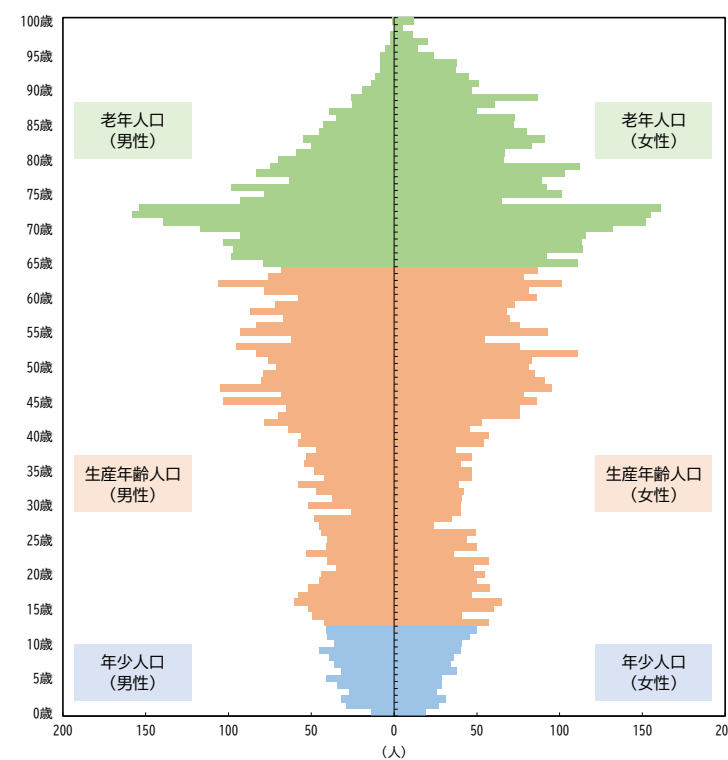
①人口推移と構成

- ・本町の総人口は、国勢調査結果をみると、1980年（昭和55年）以降は、1985年（昭和60年）に若干増加したものの、その後は一貫して人口減少となっている。
- ・年齢3区分別にみると、15歳未満の人口（年少人口）は、この40年間で2,868人減少し半数以下となっている。一方で、65歳以上の人口（老年人口）は、2,590人増加し、2倍以上となっている。
- ・年齢構成は、老年人口の、特に70～75歳代が多い。

【年齢3区分別人口推移】



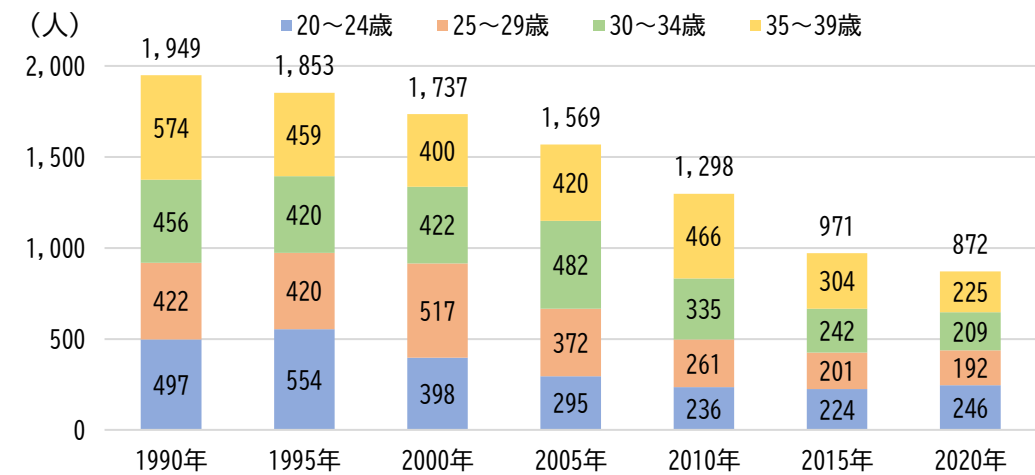
【人口ピラミッド】



②妊娠・出産適齢期女性人口の推移

- ・満20歳から39歳の女性人口は一貫して減少しており、1990年（平成2年）の1,949人から2020年（令和2年）の872人へと、この30年間で半数以下になっている。

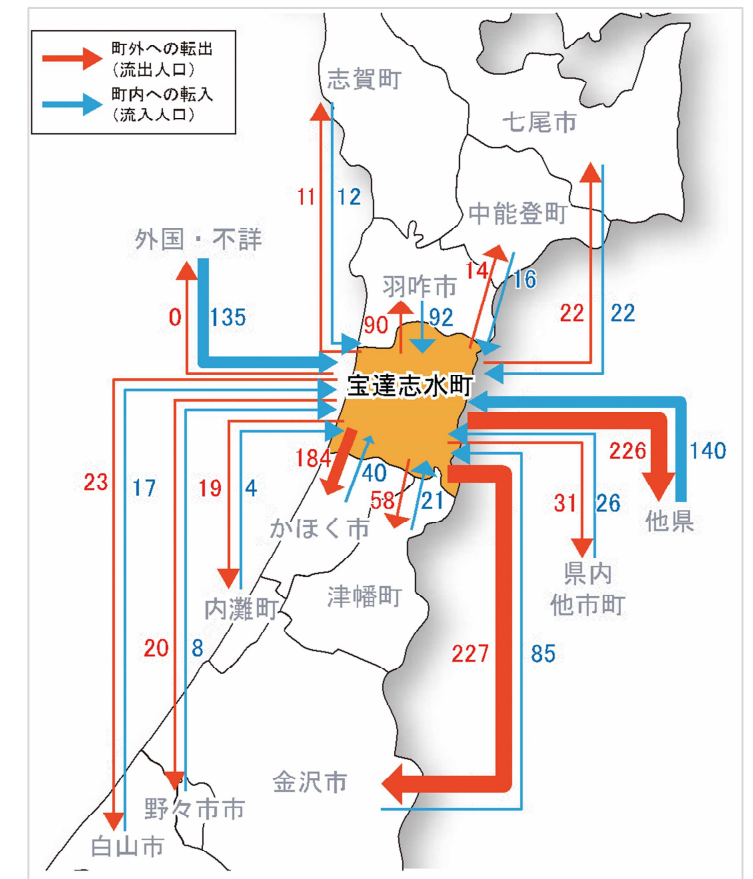
【妊娠・出産適齢期女性人口の推移】



③転出入の状況

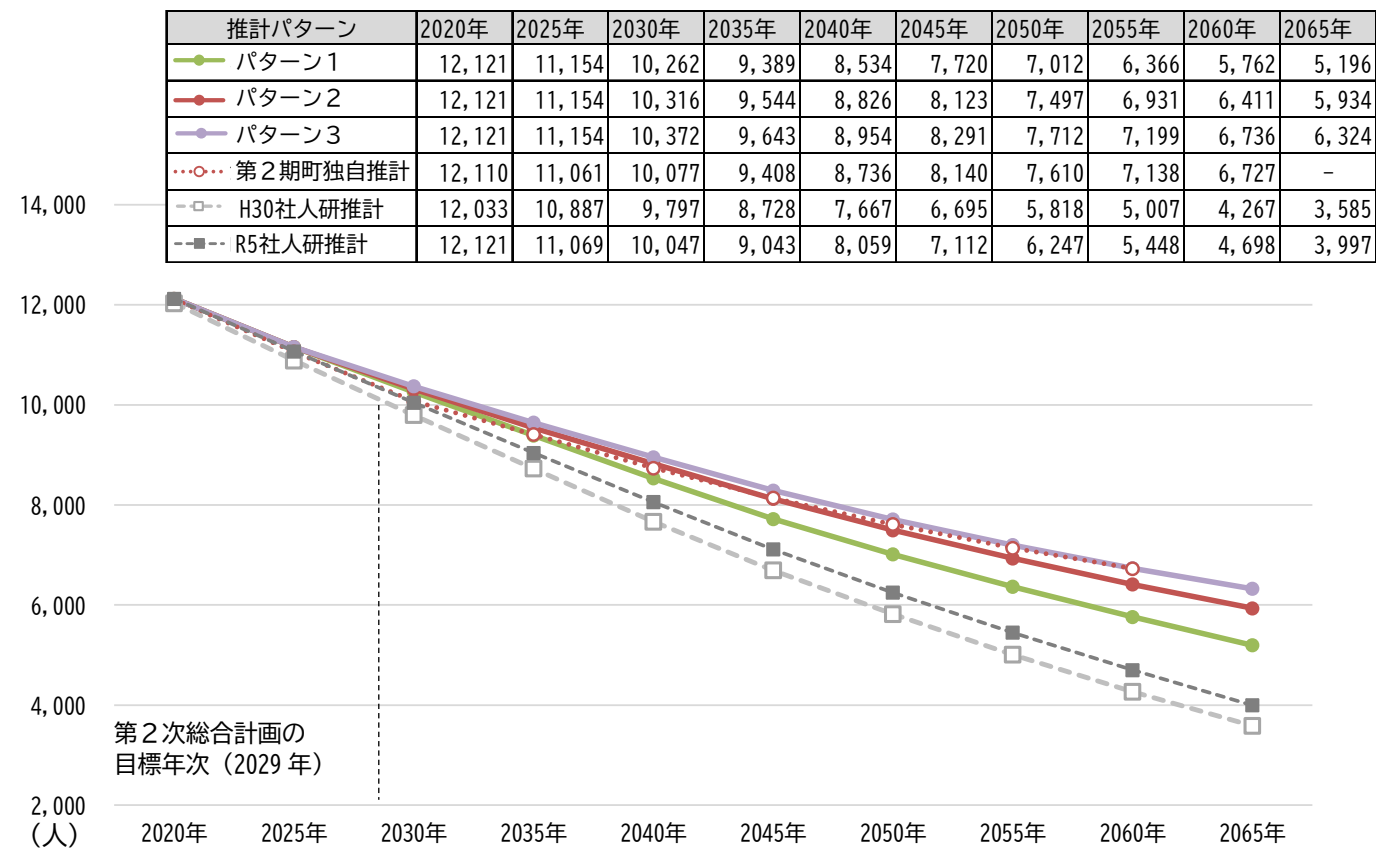
- ・町外への転出は、「金沢市」が最も多く、次いで「他県」、「かほく市」が続く。
- ・町内への転入は、「他県」が最も多く、次いで「外国・不詳」、「羽咋市」が続く。
- ・全体では、転出者（925人）が転入者（618人）を307人上回っている。

【5年前の居住地との転入・転出人口（2015→2020）】



（２）人口の将来展望（推計）

○総合計画や総合戦略の推進により、若者の定住促進や移住希望者への住環境整備及び子育て支援に関する施策を強化し、若者が育ちみんなが誇れるまちづくりを推進することで、「パターン２（町独自推計）」の水準を確保し、2065年（令和47年）に6,000人を目標とする。



【推計の設定】

- 対象期間 2025年（令和7年）～2065年（令和47年）
- 推計方法は、自然動態の変化を「合計特殊出生率」、社会動態の変化を「（市町村間の転出入の）移動率」で設定し、「社人研準拠」や「町独自推計」に基づいて算出する（コーホート要因法）。
- 町独自の設定は、第2次総合計画や総合戦略の実現により、「合計特殊出生率」や「移動率」が改善することを想定して設定する。

※社人研：国立社会保障・人口問題研究所の略で、5年に一度、国勢調査の結果から市町村の人口を推計
※合計特殊出生率の数値根拠：1.35（厚生労働省公表の宝達志水町の値（2022年））
1.36（厚生労働省公表の宝達志水町の値（2012年））
1.8（政府が2015年に示した希望出生率）
2.07（人口が長期的に増えも減りもせず一定となる出生の水準）

【推計のパターン】

推計パターン		合計特殊出生率	移動率
①	パターン１	2025：1.35	2045年から均衡
②	パターン２	2025：1.35 2040：1.8	2035年から均衡
③	パターン３	2025：1.35 2030：1.8 2045：2.07	2035年から均衡
参考	第２期町独自推計	2015：1.36 2030：1.8 2045：2.07	2030年から均衡
参考	R5 社人研推計	社人研準拠	R5 社人研準拠

【世代別の推移】

